

〈解答〉

- ① 1 ウ
2 ウ
3 ア
4 ア

配点 ① 1、3は各2点 他は各3点 10点満点

〈解説〉

①

1 すべて動詞で、アは「行く」、イは「望む」、エは「ある」、オは「する」のそれぞれ連用形である。ウは「いう」の連体形である。

2 「砂地に水が沁み込む」は、「乾いた砂に水がしみ込む」や「砂が水を吸う」といった言い換えもされる比喻表現で、「物わかりがよい様子」や「吸収が早い様子」を表す。

3 アは類義字を重ねたもの。イは上が動詞で下がその目的語となるもの。ウは対義字を重ねたもの。エは上が主語で下がその述語となるもの。オは上が修飾語で下が被修飾語となるものである。「称賛」は「称」も「賛」も「たたえる」という意味で、類義語を重ねている。

4 ア「唇をとがらせて（唇をとがらせる・唇をとがらす）」は「不平不満があり、すねたり、怒ったりするさま」、イ「頭を抱えて（頭を抱える）」は「心配な事や悩み事などがあがり、考え込んだり、困ったりするさま」、ウ「顔を曇らせて（顔を曇らせる）」は「心配事などで表情を暗くするさま」、エ「目を細めて（目を細める）」は「うれしそうにほほえみを浮かべるさま」、オ「鼻息を荒くして（鼻息を荒くする）」は「激しく意気込むさまや、強気で威勢のよいさま」を表す慣用表現である。空欄③の直後に、「文句を言っていた」とあるのをヒントに、アを導き出す。